

繪本豐臣勲功記

初編

九

4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8



繪本豊臣勲功記初編卷之九

目録

後吉郎執宥犬千代缺仁精

附懇勸忠節

義元將大軍攻陷諸扶寨

附前田勇戦

豊臣初編卷之九

目録



織田信長出陣行熱田社

附社前觀雲



繪本豊臣勲功記初編卷之九

江戸 八功舎徳水刪補

藤吉郎執宿犬千代缺籍属懇勸忠節

忠節の心堅固るれば楮袍も却て鍊衣小せしむり。茲ふ前田

犬千代未日戦功すられて孫四郎利家とハ織田殿の扈從連より出頭

せしが。慮ざりける詭者の舌頭小あざむられて。這ふひらの災

出来り。こゝろがうりよ從近ハ信長の御前を遠ざけられ誓居

して在られざるが。這遣今川上洛の赴條と听と存し。勇氣よ

騰り少年るれば心中さるる焦るめく。君子も定む防戦の

御準備あるべきとるが。小勢とてく大軍よ。嚮たるの軍

るれば。談よ九死一生の清合戦よとあるべき。最朽憾ハ這犬千代





あり。身み子こ秋毫あきごうも過あや失しるりて。清きよ前まへへ出でるる。律りつ稱しょうをを。恁しんるる。  
 大事だいじは暨あぶらしきとも。出で陣ぢんををぬぬ。殘ざん念ねんささ。いいくくんんせんんとと流りゅう吟ぎん。  
 せせがが。けけ卿きやう先せん達だつ婚こん姻いんのの。媒ばい言げんせせられれしし。木き下か藤とう吉きち郎らう秀しゆ。  
 吉きちととふふ。一いつ般ぱんををぬぬ。懇こん切せつのの。文ぶん親しんゆゆ。渠これはは憑たのてて清きよ前まへのの怒いかど。  
 解げ勸くわんせんんのの思し慮りょせせららるる。潜ひそ密みつはは木き下か家けにに至いたりり。對たい面めん。  
 ろろくく心こころ中ちゆうにに。單たんにに憑たのてて。藤とう吉きち郎らうもも預あててしし。り。  
 犬いぬ千せん代だいがが忠ちゆう志しありり。誤あや過まちをを知しるる。由よし名な。木き下かととれれとと厭いとをを。  
 一いつくく思しひひ。直ちよくちにに信のぶ長ながのの清きよ茶ちやはは出で。ささままくく。勸くわん解げてて陪はい言げんししられれ。  
 と。織お田た殿どのささららしし。諾だく受うむむららむむ。右みぎ左ひだりの時とき日ひととままごごままううちち。今いま川がは。  
 義ぎ元げん既すでにに參さん州しゆう岡おか崎さきをを進すすままりり。近ちかききはは當とう國こく智ち多たのの郡ぐん。  
三尾の境と藩一郡地は一いつ乱らん入いりままごごきき由よしとと听き。茶ちや田た犬いぬ千せん代だいおおひひ小こ鷲じゆをを。

荐すす木き下かはは歎なげききるる。今いま川がはとと防ぼうぐぐのの戦せん場ば。打うち死し清きよ免めんああららるる。やや。  
 訴そ詔しよくししられれししとと憑たのててししるる。藤とう吉きち郎らう秀しゆ吉きちおおもも。けけ律りつをを預あてて。  
 懷わいひひけるる。亦また復また信のぶ長ながのの清きよ茶ちやはは復また假かりしし。今いま川がは既すでにに三さん河がは路ぢをを。  
 軍ぐん陣ぢんをを進すすめめるる。勢いきはは五ご萬まんとと兼ありり。山やま野の林りん谷たにをを。ままをを。なな。  
 大おほ燎りやうのの光ひかり天てんととごご。周しゆうのの叫さけ喚わんをを河がは海かいにに響ひびききてて。鞆たづなししきき所ところ。  
 觀かんるる。老らう臣しん達だつのの怖おそるる。實じつはは理りとと思おもひひてて。君きみよよいいくく。  
 清きよ合がっ戦せんああるる。思しひひされれるる。言げん状じやうままれれ。上かみ總そう介け最さい誦じゆししきき。  
 相あひ顔がんしし。藤とう吉きち郎らうとと清きよ覽らんとと。某その方かた予よにに敵たてしし。合がっ戦せんのの。  
 事ことをを勸すすめめるる。其その稟りやう條じょうをを心こころ得とねね。何なんんん思し杖じやうののああるる。事ことはは。  
 やや。とと宣のたまへれ。木き下か秀しゆ吉きち。合がっ戦せんのの意い起おこるる。良よ勇ゆう士しとと。  
 一いつ個こもも。欲ほきき律りつふふるる。宛あららむむ。萬まん卒そつにに獲とれれ。猶なほ一いつ將しやうにに。



得がさうりき。怯勇士と缺籍しむ。斯る時節は清遠復るま。悼  
る。厥意と得む。訝しきや。問す。あつと。と。听て信長眉を蹙り。  
予何の日。後良武士と缺籍し。さうやある。木下何と戯や。謂く。  
報く。然と笑をせむ。と。這ふ。あひど。宣時と藤吉郎進倚。這凡  
度頻ふ。頼ひのせと。清教のるき。茶田。緯。渠。心。中。の。わ。つ。ふ。  
勇。中。へ。之。へ。清。怒。も。顧。む。斯。中。を。清。勸。解。の。ま。さ。り。犬。千。代。屢  
小臣。は。嘆。て。の。ま。さ。く。這。遭。と。そ。の。我。君。の。清。大。事。ぞ。と。覺。へ。の。大。栗  
誰。何。も。命。と。捨。て。防。戦。小。緯。の。ま。さ。り。咱。獨。の。ま。さ。り。身。を。君。の。清。系  
と。駭。る。緯。悼。り。あ。り。之。へ。今。川。勢。と。見。る。や。否。一。番。駭。は。馳。蒐。く。  
戦。損。ま。さ。く。存。む。れ。ど。も。清。缺。籍。の。身。の。悲。哀。さ。ら。骸。小。儀。て。も。朋。輩。と。  
一。列。は。清。覽。あ。る。ま。ど。き。と。落。涙。る。そ。の。ま。せ。と。看。る。心。の。痛。く。

けれ。斯。の。言。状。し。つ。る。ま。り。と。稟。ま。を。信。長。听。し。也。良。武。士。と。ハ。孰  
う。と。あ。の。へ。渠。が。緯。の。ま。さ。り。と。あ。り。つ。る。ま。り。と。渠。の。切。と。救。へ。と。某。方。渠。を  
怒。を。ま。さ。く。思。ひ。つ。る。と。そ。不。審。な。れ。と。慮。の。外。の。清。氣。を。な。れ。ば。  
秀。吉。返。を。詢。も。あ。り。悠。々。と。退。出。る。茶。田。小。斯。と。告。も。せ。ば。  
猶。諷。て。自。害。や。せん。と。其。日。ハ。渠。が。意。と。慰。め。軍。の。準。備。し。む。と。  
心。を。勵。す。還。て。後。既。十。八。日。の。黄。昏。小。向。と。て。来。ふ。け。る。が。  
明。天。ハ。織。田。殿。出。陣。す。り。有。無。の。一。戦。を。し。む。事。と。決。ま。る。  
响。小。逼。ま。る。い。う。ち。の。ま。り。と。犬。千。代。小。援。群。の。大。功。を。成。さ。せ。其。功  
勞。と。謂。達。て。缺。籍。清。免。と。願。ふ。ん。め。と。憤。小。茶。田。と。用。不。し。む。  
又。手。も。足。下。の。清。缺。籍。と。い。う。く。宥。す。の。ま。さ。り。と。君。の。あ。る。ふ。と。も  
宣。す。の。押。返。す。操。言。と。い。ふ。を。狂。論。輩。と。て。小。臣。ま。さ。り。却。て。清。不



自と蒙りたれど。今なみとも詮く。足下と小臣と。是れ  
 今親とや名。只管稟惚へん。心と碎く。甲斐もろく。近來面  
 目を失ふ。所詮明日。君も出陣す。十死一生の合戦  
 あら。然すれ。君も。今宵と一期と。思ひ。きり。み。見え。了。  
 眞土黄泉の街。少の貴賤の差別。な。と。や。茲。足下も小臣も。  
 同。戦場。戦死。な。我君。万一。毘。と。み。俺。二人。清路。先  
 の。蓬。露。と。拂。え。ん。ど。倘。ま。ら。唯。戦。死。して。主君。の。清。運。最。も。  
 一。久。一。榮。て。在。ま。さ。忠。義。も。命。と。捨。り。の。と。亡。骸。の。う。く。の  
 清。缺。籍。清。救。免。あ。う。らん。や。る。虎。豹。の。皮。の。あ。く。も。何。ど  
 武士。の。死。し。て。后。名。の。潔。き。も。泪。ぞ。け。ん。や。今。天。の。有。て。ど。明。天。の。既  
 亡。き。骸。と。ある。身。と。あ。り。ど。如。夢。幻。響。と。説。き。も。俺。們。が。身。の

う。あ。ら。り。缺。籍。の。免。る。も。免。り。さ。る。も。百。年。の。命。長。う。れ。と。あ。り。か。う。く  
 の。迷。り。然。し。思。ひ。さ。や。茶。田。刀。袷。と。檢。詢。う。れ。て。前。田。犬。千。代。を。れ。ど  
 中。で。は。我。身。と。足。下。の。執。着。し。ま。す。も。所。授。む。ぬ。け。身。の。過。を。  
 君。の。憎。し。と。思。ひ。め。ま。い。よ。く。の。縁。や。今。生。を。う。り。の。過。あ。る。ま。す。  
 右。も。左。も。小。子。こ。を。生。か。の。緒。を。き。命。な。れ。明。天。戦。場。ふ。向。ひ  
 ぬ。一。人。あ。ら。も。員。あ。り。敵。徒。の。兵。の。敵。捉。て。閻。魔。の。廳。よ  
 持。齋。や。安。婆。の。纏。頭。と。な。の。と。あ。う。ぶ。修。羅。王。恰。と。き。も。せん。  
 思。い。主。君。が。千。年。の。后。の。再。會。と。待。て。ま。す。り。君。は。三。世。の。睡。と。せん。  
 と。思。ひ。今。中。の。迷。雲。霽。朦。朧。の。夢。の。醒。み。か。ら。今。悔。む。は  
 缺。籍。の。身。ふ。り。て。明。天。戦。場。よ。向。え。ん。ふ。も。孰。が。隊。伍。と。借。バ  
 與。伍。べき。其。の。意。の。惱。と。と。鬼。神。と。欺。く。犬。千。代。も。奉。を





豊臣 徳川 九



前田 大十代  
木下 秀吉  
激進 せう  
はやく 九根の  
城へ 赴く

豊臣 徳川 九

四



打て歎息を。木下これと慰めて謂やう。是れ乃士預てより。この  
 當のあるものと。厭のと思つて悩せども。九根の佐久間大守。足下  
 ふも好ふうければ。乃士も亦懇意なす。是れ固て脱快より。足下  
 が緯と。突約おきぬ。又よく彼等よ赴きて忠義を勵し。まよ  
 登し。丹も九根就鳥頭の両は名も。敵士の蒐にやれ。新隊  
 の兵の進来る响へ。恰も破竹の像く。あふく其軍と。味を勇  
 氣と奮ひ。名と海内よ响を。と涯底と。勇を慰め。淡  
 野浜兵備よ書翰と。齎せ前田と。偕よ出起せり。清洲より  
 九根は。六里よ近き路なれば。登くも彼所へ着や。木下が  
 書翰と出。詞緯と告る。佐久間大守。まより犬千代と。親  
 しき中より。増て淡野が陪從て。藤吉郎が書翰もあね。

異儀あり。是れ請と容。實は片腕と。得たりと。喜悦あり。てを  
 款待ける。其の備。鷲頭の守將。織田玄蕃。久飯尾。近江守。係  
 今川勢の猛威。怖る。斬る。は。小勢とめて。牢城決ても。稱ひ  
 ぐ。急ぎ加勢と。乞ふ。と。清洲へ注伸と。連る。緯。實は掃の  
 齒と。挽が如し。是れが。清洲の城下。百姓商工。食都て。事の  
 地より沸る。心根し。狼狽。燕雀。資財とを。妻と。子と。伴て  
 ち。惑ひ。肝。親も。身。み。を。迷ひ。走る。を。理。ある。然。ども。城。を  
 信。長。は。い。とも。強。ぎ。む。ぬ。緯。半。生。より。も。猶。穩。は。鎮。却。て。在  
 ち。も。所。木。下。秀。吉。泰。朝。今。川。義。元。を。既。よ。み。方。を。う。り  
 の。軍。と。率。ひ。智。多。の。郡。へ。乱。入。して。鷲。頭。九。根。の。兩。城。へ。攻。蒐  
 らん。ず。る。所。体。な。れ。丹。下。二。ヶ。所。の。要。涯。へ。清。勢。と。揮。られ。は。也。



と言状をまゝ大將信長。然る彼所のはるる。而自身地驚ひ  
是と較ると思ひぬれ。徒に兵士と別て。彼要涯へ挿るる。及  
ト刻や丹下の兩城。清洲の方へ迎ければ。多くもわらぬ。軍兵を用  
ひさば。安んず。詮ある。と宣ふ。藤吉郎承所也。丹下の  
自軍の地不近く。敵地は隔る。りとも。彼兩城の要涯こそ。君の  
清運の用ひせむ。最大切ある。はるる。固て彼二ヶ所へ挿  
られし守將。不かい。覺る。勇ある。武士ある。守らる。挿る。り。已  
开も自軍。ふ七箇所の。若と次弟。よ連。れども。四ヶ所の。敵。不墜。る  
る。然る。ふ今。川。義元。の武勇。古今の。絶倫。あれども。智慮。淺く。し。七  
厥。が。く。不。驕。奢。我。慢。の。弊。あれ。諸。勢。と。烈。き。敵。と。能。く。下。隊。伍。疎。ま  
攻。進。る。ん。其。勢。勝。ふ。乘。る。响。の。總。軍。大。本。丹。下。不。驚。ひ。南。北。二。箇

中嶋も小  
智多郡  
在豐津丸  
根鳴海の  
南里はて  
つら海  
近く九根の  
宗近

所を攻着ん。然らん。响の。義元。の本陣。りとも。小勢。多。其。响。我。君  
旗。と。卷。銜。の。七。寸。と。結。た。れて。情。地。不。お。扮。む。ひ。中。將。の。間。道。より  
義元。の本陣。ある。田。樂。窪。へ。欲。投。て。敵。兵。方。僅。つ。勝。奢。心。怠。り。氣  
後。ひ。稀。寛。解。て。由。斷。し。る。不。と。隊。疾。く。毆。せ。む。大。將。を。伐  
捕。ん。と。網。裡。の。魚。より。易。う。ら。ん。と。明。き。り。ま。と。所。し。ま。れ。鐵。回。殿  
深く。喜。び。む。ひ。藤。吉。郎。が。手。と。掌。心。孫。兵。子。房。も。足。下。大。奈。何  
で。か。賢。ぶ。倅。り。ん。秘。ま。べ。し。秘。ま。べ。し。と。宣。ひ。つ。然。る。敵。地。は。近。つ  
鷲。頭。丸。根。中。嶋。う。ら。善。祥。寺。等。の。は。若。ある。兵。士。は。銳。氣。を。添  
え。んと。明日。卯。の。刻。の。蚤。天。あ。大。將。を。う。ら。出。陣。さ。す。心。と。猛。お  
勇。と。烈。し。解。成。ら。れ。と。使。者。を。めて。嚴。み。指。揮。と。傳。へ。ら。是。を。ま

義元將大軍攻陷諸扶寨 附 前田勇戰



雄る。哉織田上總介平信長。無尺の胸中。百万の兵士  
 や。たらくん。智る哉木下藤吉。所秀吉。只一片の心の肉。古今  
 功名の謀士やあらん。義元五万の大軍。て脱尾州。攻投ぬれども。  
 蟻蟻の群と看るともせば。先や軍神と祭らんと。其準備と做  
 む。信長只管。這遭の軍。必勝の响。至ると心と決められ。これ  
 べ。清く見えさせむ。ととも。老臣諸士。汗み。咽み唾と  
 つまらせむ。殿中へ番會せり。然る。小織田殿。其夜の形。摸へ。  
 紫羅の輕袍一單と被流し。事も無氣ある相顔。て。寛くと  
 酒廳み出む。驢とあり。酒宴とあり。老臣達。目と目と  
 觀合せ。これを最期の宴あらん。噫痛やと心と惱り。清盃と  
 載く。織田殿。声爽み。何も今宵。ハ。嗜と然。一獻と。願け。之樂。

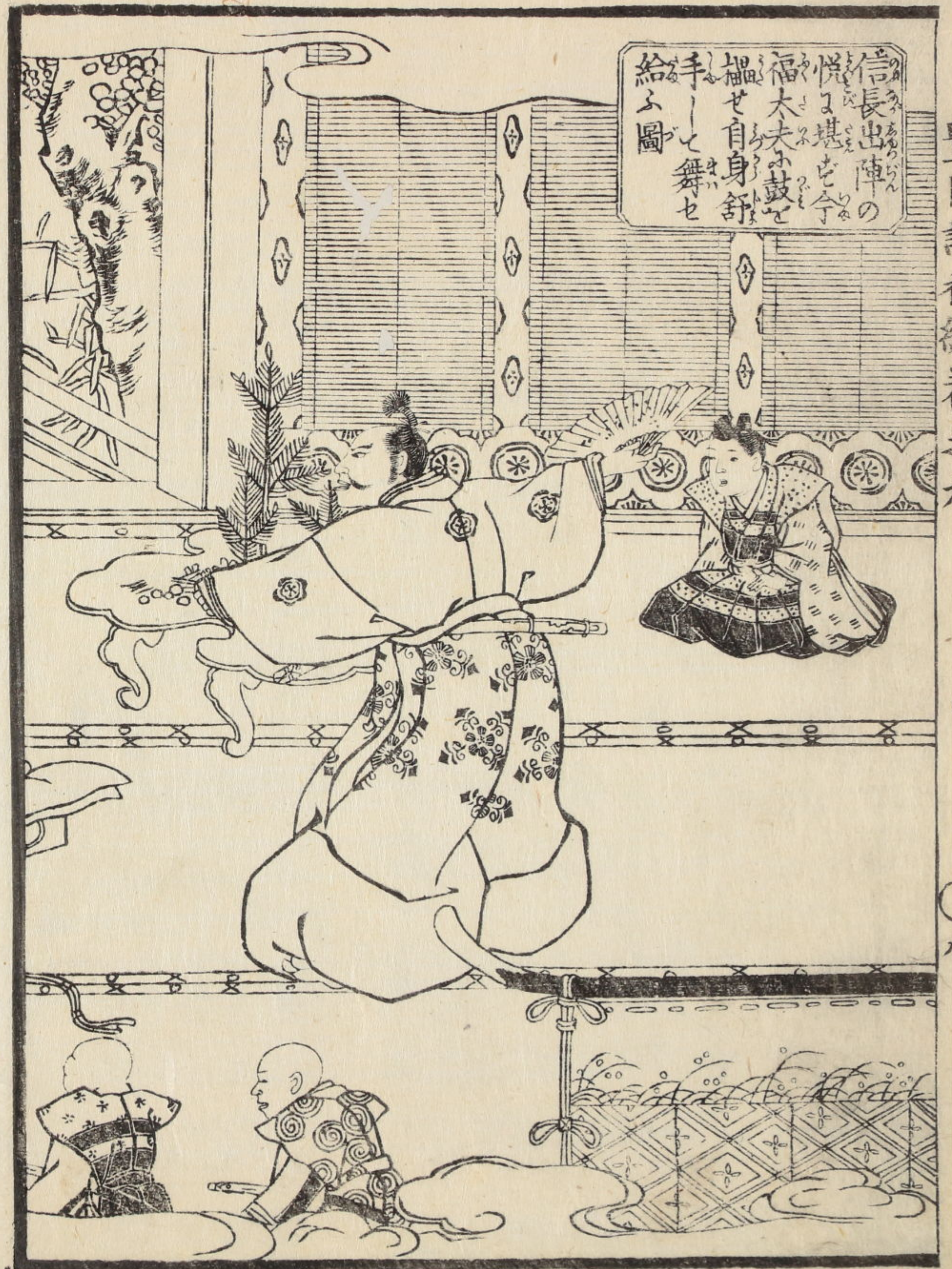
き。輝と宣。例。異り。款待。よと。一。同。小。謹。備。て。命。せ。の  
 如く。存亡。とも。明日。一日。と。逼。り。され。清。晦。道。も。や。あり。ん。汗  
 有。と。諸。声。發。し。騒。ぎ。か。さ。け。の。酒。が。醒。み。咽。ぶ。を。堪。へ。老。臣  
 諸。士。座。列。次。取。り。順。彌。し。脱。小。數。獻。み。お。ま。ども。軍。の。評。議。ハ  
 さらふ。多く。て。君。の。氣。を。愈。増。し。樂。し。け。み。見。え。む。鱧。て。今。福  
 太。夫。と。め。り。出。され。異。楓。の。鼓。搥。せ。られ。信。長。と。づ。ら。起。騰。り。扇。と  
 開。いて。清。声。と。放。され。人。同。と。う。五。十。年。外。典。の。肉。と。ら。ぶ。れ。や  
 夢幻。の。如。く。あり。ひ。と。び。生。と。う。け。滅。せ。ぬ。め。あ。え。さ。う。と。謀。返。し  
 謀。返。し。舞。つ。謀。ひ。の。興。ど。む。ひ。て。其。采。後。殿。へ。投。んと。せ。と。柴。田  
 勝。家。と。う。ね。君。の。朝。と。聲。烈。ま。大。敵。脱。み。境。面。を。要。津  
 の。地。を。攻。んと。する。小。救。を。み。氣。色。も。な。く。又。合。戦。の。評。議。も。な。く。



豊臣記 初編 卷之九



豊臣記 初編 卷之九



信長出陣の  
 慌々甚き今  
 福大夫の鼓  
 搦せ自身針  
 手と舞せ  
 給ふ圖



勝家一圓心おちのを奈何思しめさるふやと。言まを織田殿ら  
 笑ふ。敵境面不進する。諸所の注伸辱るべ。明天こそ  
 自身出陣して。如く思決りし如く只一戦不勝負と決せん。何を  
 評定為べきぞ。た。一丹下の両城へい。守將と定めたりけり。  
 茲へ大事の要涯あり。勝家向うて成るべし。坂井右近。名古屋彌  
 五郎。共く力と勳まべきぞ。備亦南の砦と佐久間右衛門尉。  
 池田勝三郎。丹河五郎左衛門。森三左衛門守り。之據て準備  
 去るべし。随分勵て防ぐべきぞ。夜へ已及と過ぬん。快お起て  
 彼所へ行きた。予もま。馳て出馬をあるふ。準備くと宣ひまて。  
 衝と寢殿へ投する。勝家信盛。沂説と所。最嬉しげふら笑ひ。  
 實ふ世の中の人の身へ。君の謠をせむる如く。一遣せと託し身の。

滅せぬや有べきぞ。自も他も一齊ふ。今宵限の對面をや。命ふ  
 有らぬ独戦をれよ人と。進ふ勇氣と烈し。合自己く不遇去  
 して。出陣のあ。區あり。又手も進軍今川方少。大將治部大將  
 義元朝臣。十八日の夜諸士と哀れ。敵の砦子攻蕨る。其軍配を  
 定めらる。ま。鷲頭へ富永伯耆守氏繁。遠州相良の城主。朝比奈  
 小二郎。泰秀と大將と。一萬餘騎。浦左馬助。義次と二陣と  
 して。五千餘騎と當向られ。次ふ丸根の砦へ。庵原右近大夫忠春。  
 田原秀卿八代藤左馬。俊忠の後胤。飯尾豊前守。辰。一萬餘騎を  
 あり。俊忠初。駿州庵原。御住を後氏守。初。維貞といふ。五千騎。進與て後  
 副。亞。葛山。備中守。勝吉。駿州。竹下。の住人。由井。美作  
 陣とも。而して。義元の本陣。江間。左京亮。成親。石。由井。美作  
 守友政。駿州。田中。の城主。関。越中。守。高重。駿州。瓦。次。城主。富塚。修理。進。勝。氏



三千五百石と領を温井藏人宗次朝比奈藤九郎昌時石川新左衛門春時  
 已个一万六千有餘騎をして左右と守り列伍する。亦本陣の左に  
 松井五郎八宗行遠州二股の城主二百餘騎をして左翼と張右の方より朝比奈  
 備中守遠州掛川濱五百餘騎をして右翼と張。今川勢へ斯の如く。  
 海とも山とも壁をめぐり。月も泊るる大軍をた。新隊ともて容換は  
 尾州方の要涯と。偏端より攻利きと唾津と吞で待たふ。夏の  
 夜の曉易く。左より黎明鄰さけるが。軍の準備辨ひく。今川勢  
 二万餘騎九根より頭と攻の勢多寅の叔ふ兵糧と喫し。卯の刻報ると同號と  
 して。発軍の烽火と放つや。人馬一齊に発し。誓頭九根を推  
 進する。程さへ幾きふ攻足の。それと魁を馳せし。瞬點ふ二万餘  
 騎若まらぐ。矢くと進るや。不や魁兵の隊伍。鳥銃一途よりち

うけく。温起其下より鎗節間を作りうけ。棚をく息とも継ぎ。只  
 一攻ふ攻滅せし。嘍と声ふて揉起る中。小流て織田の勇士佐久間大  
 学盛重が守りする。九根の北を向ひし庵原右近大夫忠春飯尾  
 豊赤守武成一万餘騎と率徒へ隊伍と龍蛇の如く。列ね鷲と  
 然とて推寄る。續て後陣の葛山備中守が五千餘騎は隊不  
 合さる。喊の声。山鬼と噪ぐ。海神と驚る。今や大地も顛る  
 うと疑ふ。小むりの勢威みて。城下近くある木小烈しく下り。さ  
 三方より僅五百の窄城と。揉起る。折観ハ磐石とめて。雜卵と  
 塵よりも猶危ふけ。然ども守將佐久間大學目眩く。何どの  
 大軍と。蠢出る。轟とも。ち。ひで五百餘人心と一より。自分く。の  
 固場と。窄め。炮弩と放ちて。勢猛く。火水と成て。防戦小征る。



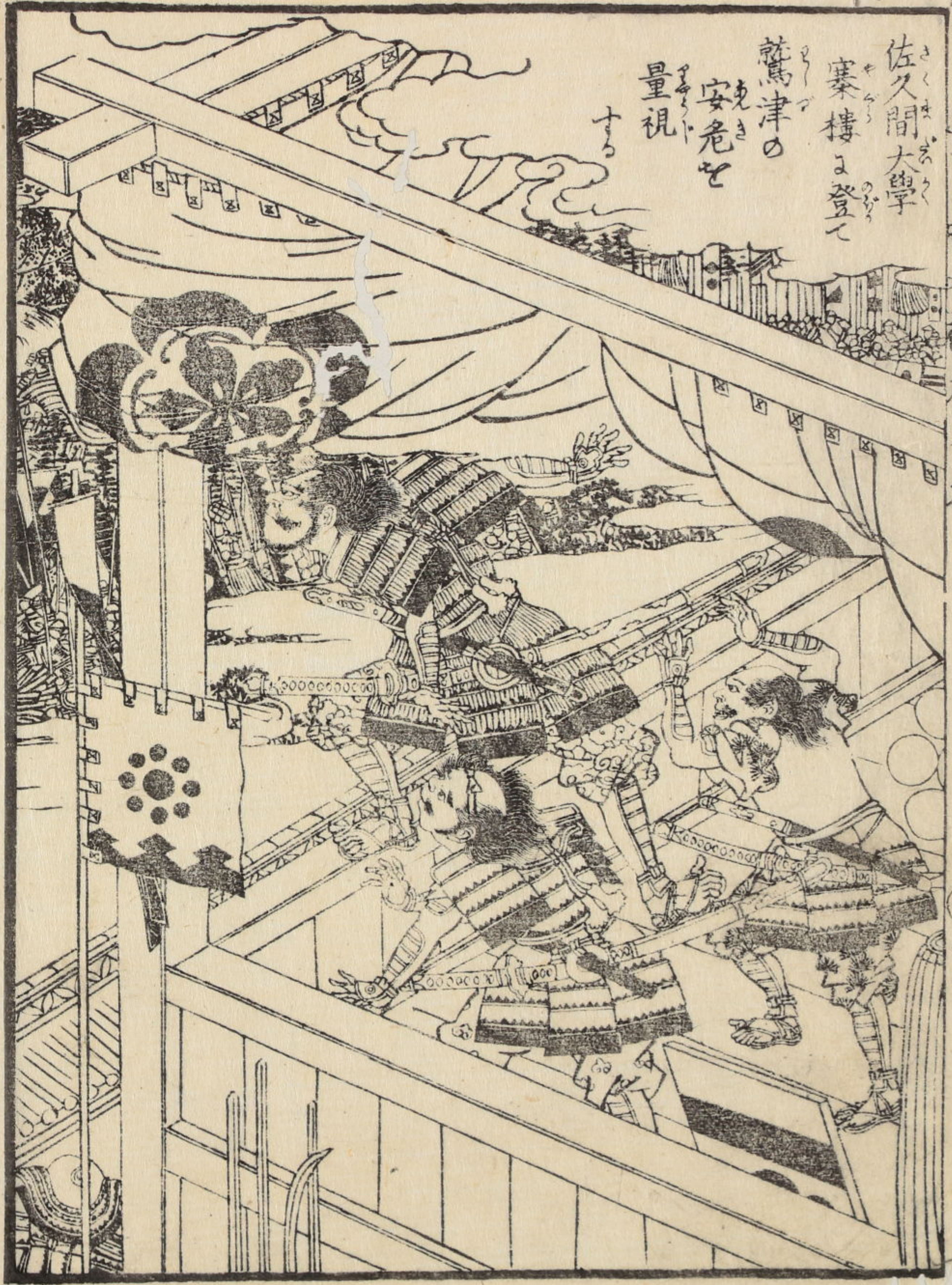
海道小名も高き庵原飯尾が猛軍勢防ぐ尾州小所見えあふ。  
 佐久間大学も若くは、雙方必死の戦ふての果べうとも見明し。  
 剛丈の進兵も若くは、猶縁の看えざる所と。佐久間大学  
 見沈して。進兵ハ既小浮足るぞ。這と防げや兵士們と。頻小指  
 揮して勵せしけり。又手亦驚頭、此をハ富永朝比奈三浦元  
 と。一万五千有餘騎あて、去くと推捕卷、策をうけ鳥銃ちうけ。  
 無二無三小征起れば、此若の大將織田玄蕃、馳卒小指揮して  
 防ぐといども。進兵ハ雲霞の像くみて隙際わくせむ打圍む小  
 城中の兵士膽と冷し。統ハる我小わして狼駭と駈廻り。落馳  
 駿のとあつと。進兵ハいふく氣小来と。息とも破せむ攻起し  
 守兵も方僅ハるりくね。牆と打起岨と傳ハ。落行門家多

りけり。丸根の守將佐久間大学。身と跳らせむ擔小登り。隣  
 石と脱と看て。噫朽城や驚頭、自軍。最も危き所躰る。  
 兼回刀移らるるぞ。勇ぎ、彼此若く馳敵ハカと勸せて濟せしめ  
 る。進敵のつづも、岡の顔つ。山岳喬く所ゆる。玄蕃元が歐れ  
 一あや。驚頭の此若墜もせむ當城のや。雜儀多。方僅二時も踏  
 堪む。君の所出馬あふき小熱まね敵と破崩し。自軍の因運  
 時至らん。熟責むや兼田刀袵と。馳せ烈せざるや。兼田  
 犬千代一義も多。強敵と見て進むこそ。勇士の望む本意なれ。  
 初や足下の下知さるる。何る背きりよまき。噴煙や。謂来小  
 鐵推把ふハ飛電の如く。糟毛の駒小打跨り。左右の韃ひきさる。  
 発る。醫小撥扱と一揺動ると。佐久間ハ見て。大張雄士の魏と。





豊臣氏初編卷之九



佐久間大學  
塞樓又登て  
驚津の  
安危を  
量視  
する

豊臣氏初編卷之九



足下などの武士がせめて兩三鷲頭よりいふ。然るを小松軍の倅  
 まで噴朽滅しや弱輩們。臆病神より勾引る。奉止様のうそを  
 さよ然る急がせむのぞ。若と出しまわらん。とらう。魁小馬と  
 騎出。服部玄蕃。渡邊大内藏。二勇士左右副従ひ。茶田と  
 中央に推連て。城関八文字小呀くと開き佐久間大守正魁小驅  
 発群集敵の直心へ。烈風の像く擲蒐る。進敵はまよ。責臣果  
 で。隙にひ在る所なれば。這勢小機と呑き。左右颯と拏別る。  
 茶田繼て駈さう。今川勢へ取次ふり。路と用て通しけり。  
 茶田維り突抜て。鷲頭の城へ馳着看る。城中果し。將卒  
 借ふ。早くも城と落通て。中島の方へ意當し。逃往むと適下  
 と。今川方の朝比奈三浦。嚴く這と追歐る。又富永の自兵

下知る。鷲頭の城小投換り。持固る所なれば。茶田顔小氣と  
 焦ち。一刻早に新計。松き城ハマ。のぞ。噫朽滅しや  
 断腸しや。と驟斬とさして怒り。切て。當の敵將と。一個より  
 とも伐捉て。織田止士の鋼と觀せんと。獅子奮迅の猛威とあり。  
 敵の傍除より擲罪り。觸るふ信せて突発する。今川勢へ勝ふ  
 乗。隊伍と紊し。逐蒐る。厥直心と大千代か。思ひもよ。横  
 抜り。縦横無碍と鎬まふ。今川勢ハ右顛左倒。時不敗將  
 織田玄蕃。逃足駈りて後面。誰何ふ知らね。自兵一人  
 縮趾て戦ふ健勝さ。伐る兵輩助帮よ。と四五十人むり。て  
 吐と嘯て把て返す。カと勅せて戦ふ。茶田のり。雄乳と憎  
 三人五人。傾率鎬。或ハ燈の鳩胸。て。近親敵と蹴翻。四角



八面ふ捌巡ると富永伯耆守が部下より。松山新吾との  
壮士鎧把舒て跳出。十分捷する軍を敵一人ふ捌起られ  
自軍のめくまで敗走する。最朽減き俾ふこそ。赤田を  
歐て敗軍の諸士う耳同と覺させられんと。騫地驅ふ突蕙  
犬千代へ今天と期と。命情まで擲き。良敵もやとふ  
機會新吾が突発を槍尖の銛きと看て強泰あり。汝も  
喰ふ心ありて。鎗と合する殊勝さ。鎧ハ斯こそ揺ふりの  
ふれ。受て冥途の自餽よせんと。併合せて下り。突止。突つ  
拂ひら。却却。新吾も名爛る剛の兵。此も緩ま。修練  
と盡し。宴時へ挑闘ひ。赤田も精ふ腕疲れ。稍逃  
槍ふ做けりと。赤田得ると。鎗容々。隙際もある。責経

一が。い。い。い。新吾が鎗千檀巻より折ければ。斯へ。軍  
と馬と騎下。太刀と抜くとせ。と。赤田大喝一声。あ  
鎗さ。の。を。新吾が太股鞆も徹とと。赤田。鎗とて  
徹も堪らばと。騫馬。馬より墜る。見ると。前田。跳  
却。推。逼。て。首。と。搔。破。り。前。輪。ふ。これ。と。拮。拮。着。存。び。馬。ふ  
うち。騎。て。逐。来。る。敵。と。待。合。も。這。威。も。怖。と。けん。吐。と  
喉。て。牽。返。ま。ふ。玄。蕃。允。も。辛。よ。と。中。島。の。方。へ。牽。返。く。  
前。田。へ。新。五。郎。馘。把。あげ。筆。立。の。筆。と。搔。拮。と。前。田。某  
岡。王。系。へ。の。自。餽。あり。と。記。せ。一。碑。と。馘。み。着。一。人。の。駢。卒  
み。これ。と。齎。せ。大。將。の。實。檢。ふ。備。へ。させ。む。られ。と。木。下。が。陣。へ  
頼。と。遣。其。信。馬。と。擲。て。返。し。丸。根。の。城。へ。迫。づ。き。観。と。バ





前田大千代



前田大千代  
落城を  
驚かす  
松山が  
木下許へ  
餓る圖

豊日言衣巻六



斯へのいふせん。此若疾くも敵を奪われし事

織田信長出陣祈熱田社属社前觀靈

昨日の夢の黄田も。今日へ夢とて臚血の混くと流る行相ハ  
紅草隴よりも輒りき。山林郊野も鏗連ね。兵器のうきハ  
幾千万嫌田の針より夥りけり。然るやどふ九根の此若ハ  
庵原飯尾が一万餘騎。隊疾くこれと征けるやどふ佐久間  
大學三百餘騎。魚鱗もそきて突発なり。今天と期と戦  
あさり。今川方の壯士輩。軍も熟する功の兵も必決死程を  
敵とて。後陣葛山が新兵も通與。歴や此若も擁投と佐久  
間が隊伍と断切て。熾火の像く攻まる。然とも死憤の佐久間  
盛重。隊伍と火車の如くも懸り。此若も搦らんとひりりき。迄

飯尾が勢の後より。搦ますと探崩を。これがあるふ豊前守五千の兵  
と取て返す。佐久間と中ふ推拈稠。一士も餘さば歐拈と攻着る  
隙小庵原右邊。同トく五千の兵も下知る。堀と跨踰跳越。雅  
も扶寨も乘入り。攻起るも若の兵士一足もたれど挑戦ハ  
一人も残らむ戦死も。右邊も僅も瘳と負されど。遂も此若と乗  
執り。諸城外も佐久間大學。今川勢と砍拂ハ。此若へ取て  
還らんと探起り。戦へるも。敵ハ涯畔もき大軍も。強隊の兵と  
容換り。東西南北一寸も又るも。所も。歐とも搦とも破れハ  
こそ。方僅と最期の胸ありと心と決して戦ハ。雄氣敵も十倍  
あり。瞬點も敵兵の亡骸と山も積りける。然と自兵も多く  
歐も。佐久間服部渡邊儻心ハ。猛くをなれども。身鐵石も



丸根の城  
船小  
佐久間  
大學主從  
戦死の圖



豊臣記 初編卷之九



豊臣記 初編卷之九



され六太刀癡箭癡駑。總身赤不紺糸の。鋤も方僅ハ未と  
 斐ト。馬さ、鎗さ、失よて。太刀も漸くあま、来つれハ、鏃擦  
 銃具不推當く。曲ると直くと破捲きと。腕筋脚骨疲累  
 乱軍中よ戦損せ。斯る所前田大千代、鷲頭の戦場  
 より把て返し。佐久間大学と一隊不都合方僅一戦せんもの。と  
 鞭不鎗とうち合せ。騫し、不驅来と。砦の上よハ、庵原  
 右邊が。旗幟喬く翻り。佐久間ヶ印の鎧被と。殘兵諸所  
 不歐と。惨哀佐久間も戦死せし。砦の上よハ、敵の大軍  
 愉快よと連び。斬て入るき路もあし。縦令雄氣と烈と。  
 這不砍投戦損をも。證人あければその詮あらん。我君の  
 濟大事ハ、今より後こそ肝要なれと慮轉しと又荐び。馬不

鞭うち素来一路と中島當と幸退し。這不今川義元朝  
 臣。桶狭間の郡地多。田樂窪陣と攝。魁隊の戦い  
 多らん注伸と待所。鷲頭九根の両砦ハ既朝駑。乘取  
 て。贖九根の大將と佐久間大学と歐取し。あらん不誠  
 とも多く齋せ。實檢ふれし大將愉快ふら笑ひ。然と  
 あんき、輝なれと。極りる喜悅を。樽と開て使者と搗ひ。  
 諸士の勲功と賞しけり。屢ハ借園清洲勢。柴田佐久間森  
 池田坂井。あんとの武兵大將。二千餘騎を出陣せ。丹下  
 西城の要涯へ。隊部と争てぞ進發せ。又丰十九日ふり  
 ぬるが。織田上總介信長ハ。例より靜晏し起出ふ。晨の  
 縻ふと喫止る所へ。鷲頭九根の注伸来り落城せしと



若<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>つ<sup>レ</sup>まれ<sup>ト</sup>。驚<sup>カ</sup>さ<sup>ル</sup>も<sup>シ</sup>色<sup>モ</sup>も<sup>シ</sup>。雄<sup>ヲ</sup>然<sup>ト</sup>し<sup>テ</sup>沖<sup>ノ</sup>旗<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>標<sup>ノ</sup>騎<sup>ノ</sup>塵<sup>ノ</sup>  
 ち<sup>ト</sup>出<sup>サ</sup>れ<sup>テ</sup>。既<sup>ニ</sup>小<sup>ノ</sup>鏡<sup>ト</sup>と<sup>リ</sup>ま<sup>シ</sup>。所<sup>ニ</sup>へ<sup>テ</sup>木<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>秀<sup>シ</sup>吉<sup>ト</sup>泰<sup>ト</sup>朝<sup>ト</sup>乎<sup>ニ</sup>。存<sup>ス</sup>る<sup>音</sup>  
 の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>。熱<sup>田</sup>の<sup>宮</sup>中<sup>ニ</sup>を<sup>沖</sup>先<sup>ハ</sup>さ<sup>シ</sup>。待<sup>テ</sup>て<sup>申</sup>つ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>言<sup>ハ</sup>状<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>。  
 馬<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>打<sup>ノ</sup>騎<sup>ノ</sup>馳<sup>リ</sup>け<sup>ル</sup>。織<sup>田</sup>殿<sup>ノ</sup>さ<sup>ら</sup>ハ<sup>チ</sup>突<sup>ク</sup>ん<sup>ト</sup>命<sup>シ</sup>込<sup>シ</sup>道<sup>士</sup>守<sup>善</sup>兵<sup>衛</sup>  
 螺<sup>貝</sup>の<sup>声</sup>天<sup>高</sup>く<sup>。碎</sup>く<sup>ト</sup>し<sup>テ</sup>吹<sup>起</sup>し<sup>ル</sup>。勇<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>て<sup>見</sup>え<sup>ふ</sup>け<sup>レ</sup>。  
 ち<sup>ル</sup>小<sup>ノ</sup>城<sup>中</sup>の<sup>諸</sup>軍<sup>勢</sup>。前<sup>夕</sup>の<sup>酒</sup>宴<sup>ニ</sup>心<sup>緩</sup>み<sup>。剩</sup>り<sup>打</sup>解<sup>ス</sup>  
 過<sup>シ</sup>と<sup>見</sup>え<sup>。螺</sup>の<sup>韻</sup>己<sup>ふ</sup>了<sup>れ</sup>も<sup>。出</sup>参<sup>り</sup>ぬ<sup>る</sup>輩<sup>ハ</sup>六<sup>七</sup>人<sup>ノ</sup>  
 過<sup>さ</sup>り<sup>け</sup>。織<sup>田</sup>殿<sup>ノ</sup>れ<sup>と</sup>見<sup>ぬ</sup>し<sup>。馬</sup>と<sup>騫</sup>地<sup>ノ</sup>の<sup>驅</sup>さ<sup>せ</sup>ひ<sup>。熱</sup>  
 熱<sup>田</sup>の<sup>宮</sup>の<sup>旗</sup>屋<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>ま<sup>。三</sup>里<sup>ノ</sup>の<sup>道</sup>と<sup>一</sup>駟<sup>ノ</sup>ふ<sup>。息</sup>も<sup>吹</sup>せ<sup>。馳</sup>ま<sup>ひ</sup>。  
 這<sup>ふ</sup>待<sup>せ</sup>も<sup>小</sup>隙<sup>ノ</sup>漸<sup>次</sup>同<sup>勢</sup>馳<sup>着</sup>て<sup>三</sup>千<sup>餘</sup>騎<sup>ノ</sup>ぞ<sup>ろ</sup>ろ<sup>ふ</sup>け<sup>ル</sup>。  
 木<sup>ノ</sup>下<sup>藤</sup>吉<sup>郎</sup>秀<sup>吉</sup>。後<sup>て</sup>這<sup>場</sup>小<sup>待</sup>ま<sup>り</sup>せ<sup>。合</sup>戦<sup>ノ</sup>の<sup>勝</sup>利<sup>祈</sup>り

の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>。願<sup>書</sup>と<sup>社</sup>頭<sup>ノ</sup>小<sup>呈</sup>けん<sup>緯</sup>然<sup>る</sup>と<sup>言</sup>上<sup>せ</sup>う<sup>ハ</sup>右<sup>筆</sup>職<sup>ノ</sup>  
 する<sup>竹</sup>井<sup>夕</sup>庵<sup>。渠</sup>と<sup>召</sup>され<sup>て</sup>記<sup>せ</sup>ら<sup>れ</sup>

敬白祈證文

夫<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>當<sup>社</sup>之<sup>大</sup>神<sup>者</sup>累<sup>代</sup>聖<sup>主</sup>之<sup>曩</sup>祖<sup>。朝</sup>々<sup>鎮</sup>護<sup>之</sup>  
 靈<sup>神</sup>也<sup>。昔</sup>征<sup>夷</sup>狄<sup>之</sup>凶<sup>賊</sup>今<sup>守</sup>家<sup>國</sup>之<sup>久</sup>盛<sup>垂</sup>跡<sup>於</sup>  
 東<sup>海</sup>之<sup>邊</sup>域<sup>。中</sup>信<sup>長</sup>荀<sup>爲</sup>平<sup>相</sup>國<sup>綿</sup>々<sup>瓜</sup>瓞<sup>。受</sup>生<sup>於</sup>  
 弓<sup>馬</sup>之<sup>家</sup>僅<sup>繼</sup>箕<sup>叟</sup>之<sup>業</sup>以<sup>來</sup>遠<sup>悔</sup>先<sup>祖</sup>之<sup>無</sup>道<sup>近</sup>  
 憂<sup>叔</sup>世<sup>之</sup>極<sup>亂</sup>而<sup>欲</sup>再<sup>興</sup>帝<sup>都</sup>之<sup>衰</sup>微<sup>。拔</sup>國<sup>家</sup>之<sup>憂</sup>  
 患<sup>。仰</sup>君<sup>於</sup>堯<sup>天</sup>住<sup>民</sup>於<sup>舜</sup>地<sup>之</sup>外<sup>素</sup>懷<sup>非</sup>他<sup>。中</sup>干<sup>茲</sup>  
 源<sup>義</sup>元<sup>起</sup>駿<sup>豆</sup>之<sup>間</sup>振<sup>威</sup>遠<sup>。之</sup>内<sup>犯</sup>近<sup>鄉</sup>遠<sup>里</sup>破<sup>却</sup>  
 却<sup>。神</sup>社<sup>燒</sup>亡<sup>。民</sup>屋<sup>任</sup>我<sup>意</sup>而<sup>不</sup>敬<sup>。敵</sup>慮<sup>不</sup>須<sup>。台</sup>命<sup>。妖</sup>



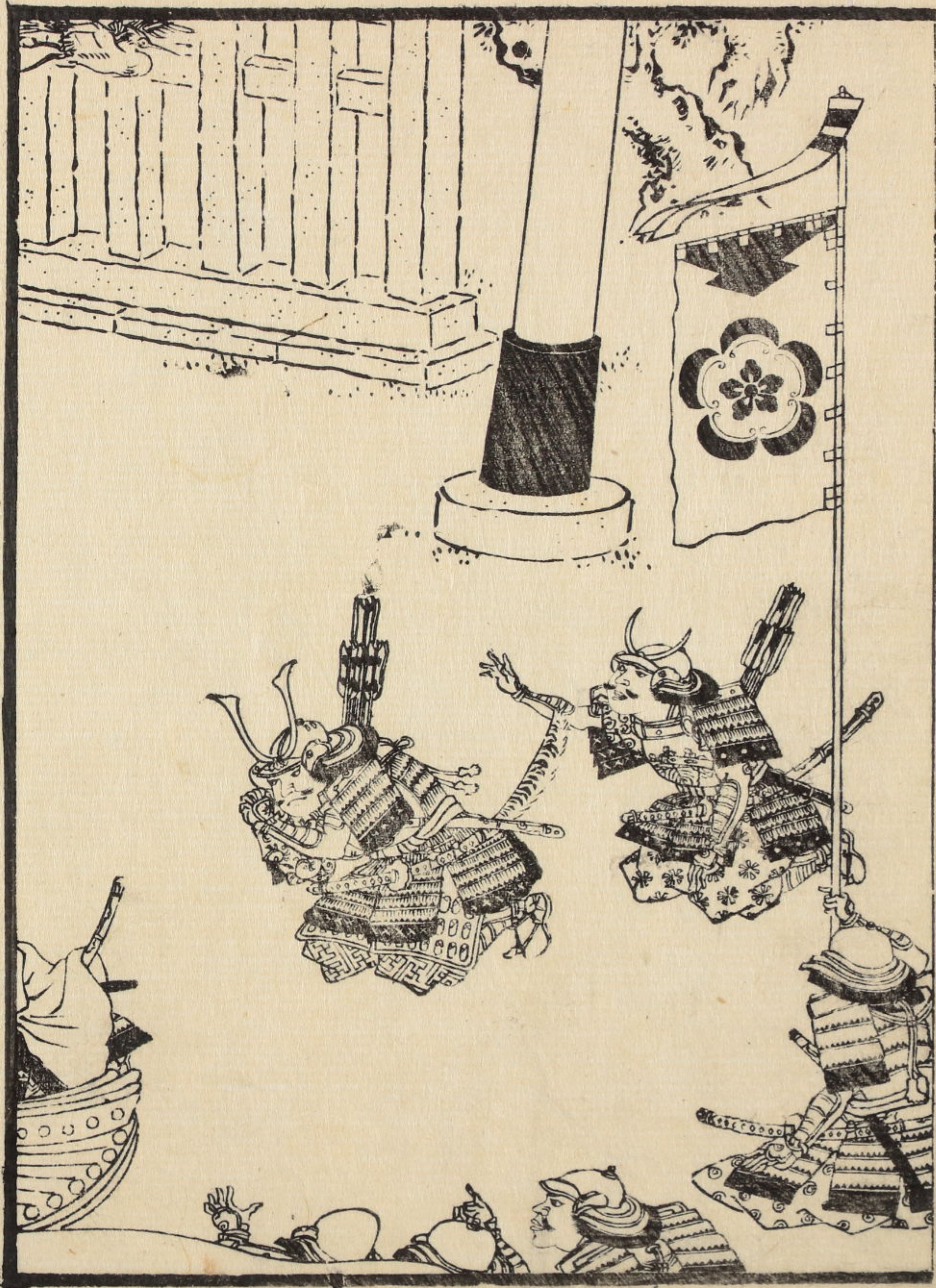
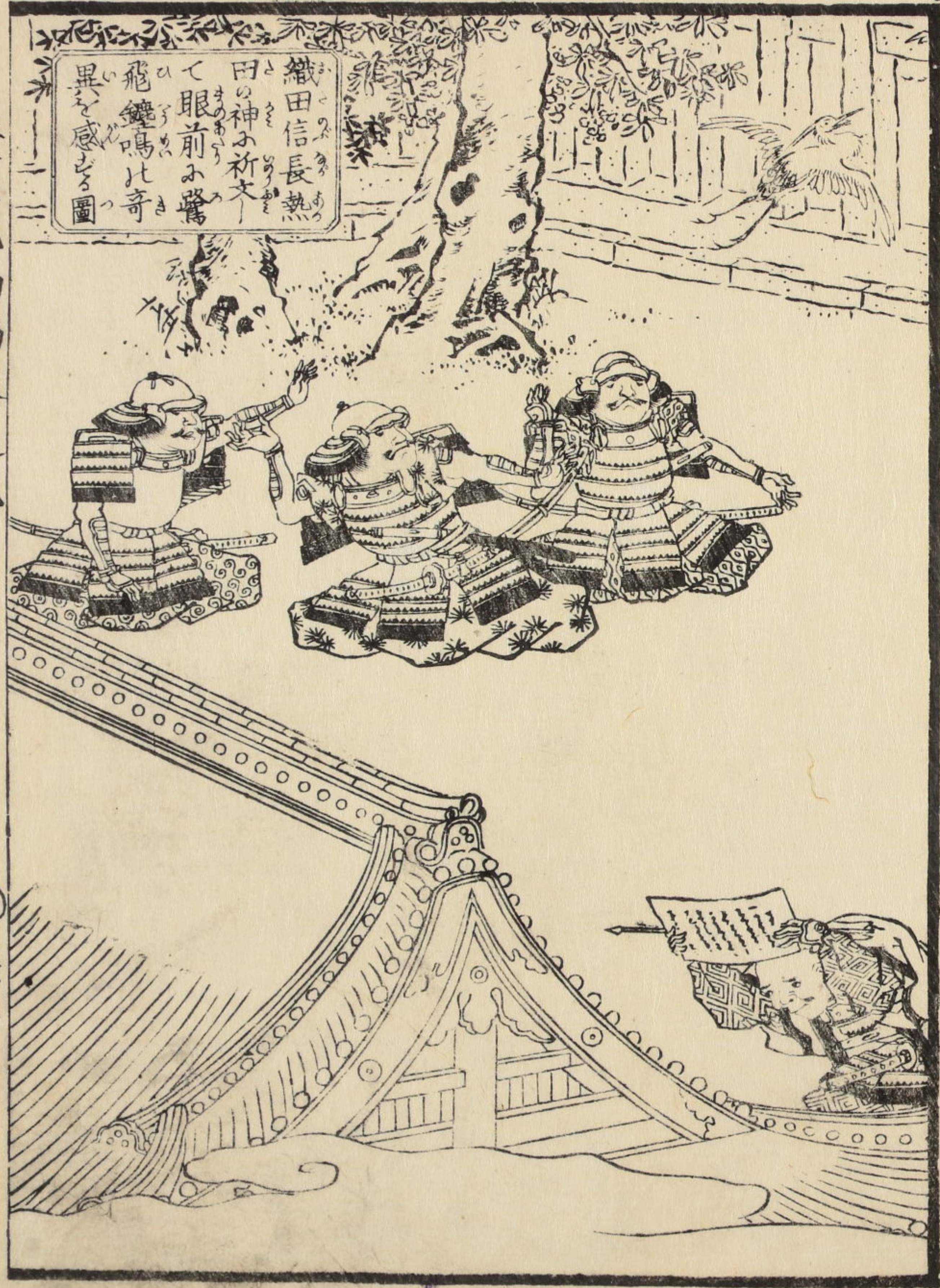
孽日盛日茂葛藟相連無奈之何有芽葉不剪則却  
加斧斤之愁今既牽強兵猛卒犯尾陽之境地如是  
也彼多勢及四方有餘此無勢僅三千不足以寡對  
衆恰似螻蛄當車轍同蚊子咬鍊牛非單賴當社神  
力爭得勝之乎傳聞日本武尊之古亡東夷於蒲  
原也嘉兆如合符契速誅戮凶徒於日擊之間必矣  
仰冀水火之兩石隨宜施靈驗八劍之銳刃斬衆賊  
之首立滿所願伏捧一矢鎬以準西林之禰祭蘋蘩  
之祝奠者也今此舉義兵者全非私用私欲為起王  
道之衰救民間之危也玄鑑莫誤仍願書如件

永祿三年五月十九日

平信長謹白

斯記得つ古例よるひ上差の鎧矢一筋脱取これ小添て奉納あり。  
要時念禱しをんと陽の神請拍神と拜する小先陽のわらとと三拍下  
後小陰のからぬ二のらとと是則三  
陽の教二陰の教るなりうち鳴。頸と低て拜する機會くら。吁不思議あり  
本社の内ふ。鏗の音高く听え。忽然とて社頭と出。東ふ向ふ  
て馳るか如く听えたり。木下秀吉躍上て馳立。當社ハ所地  
日本武尊ふおらて。東夷征伐の勲功中しを最も尊き  
神ありふ。唯今听えし鏗の音の東と當て馳立ふ。取も  
整さば東夷する。今川勢と罰しをんと。靈驗ありし疑ひ  
る。眼前斯の如く。神力既ふ加たるうら。敵幾万騎あるふも  
せよ。何う怖る。痺あらんや。敵より奔つ弓鳥銃ハ却て敵の兵士  
と殲滅。自方ふ曾て害ある事。吁賢神ふ偽なきものを疑ふ





豊臣言初巻之九



人こそ畏られ、嗚呼ありがき神徳や。現ふ掲焉靈驗あり。と  
 再拜してぞ歡ひける。此激言ふ大将信長。數行の感涙、苗敢を  
 禮拜するこそこく度。陰の神送ふ二拍せり。浩る奇瑞と牛の  
 あら。觀聞しける軍兵們、忽地隨喜の色と顯し、勇氣凜と  
 と猛りつ。收戰場へ馳着て、敵と歐んと喘りけるをぞ信長  
 せましく、驍躍しむひ。先さらば奔軍せん。我ふつけやひとごと  
 馬ふ拍りれ。駈出さんむする野ふ。二頭の白鷺、奮翫して。社頭  
 より、翱出し。旗は魁ぞち道守く如く。東と當て翱りゆく。秀吉  
 これと眈と目送す。當社の神靈その往古。白鳥と化しむひ  
 詞へ正しく縁起ふ記されしを。然まれば、死行を驚も、熱田  
 の神の靈ふこそ。不思議多りける瑞相や。と兜を脱ぶ拜禮

それ。是と觀つり、諸軍勢。まましく、神と憑まのらせ  
此一取、陳篇  
 之一説、口桶、挾間之役、信長、謁熱田神祠、禱之、曰、駈兵、百万、既陷、數城、勢、益、  
 中國、士卒、戰栗、不知、謀所、出自、非、假、神威、以、逆、擊、之、豈、可、得、勝、大、敵、乎、因、願、  
 軍士、曰、神、欲、以、錢、上、試、雖、雄、季、今、所、授、數、錢、皆、勝、必、大、捷、若、無、則、議、和、焉、耳、  
 此、明、神、之、心、也、祝、了、手、自、擲、數、錢、於、幣、檀、使、左、右、抗、入、祝、之、乃、其、錢、皆、面、時、神、  
 宮、中、忽、聞、鳴、鑼、士、卒、感激、勇氣、百倍、信、長、亦、大喜、明日、進、兵、大、戰、于、桶、挾、間、一、奉、  
 獲、敵、將、義、元、首、級、蓋、信、長、好、詭、計、竊、用、兩、面、錢、獎、士卒、又、以、鳴、鑼、誘、衆、心、而、已、  
 驍、進、んで、駈、つり、ける、源、太、夫、の、宮、尾張氏、の、遠、祖、の、祭、り、東、の、方、と  
 眈と望む。黒煙、天ふ西、復ひ。火勢、八方、散乱して、物まきましく  
 見え、さう、正しく、鷲、津、九、根、の、扶、寨、と、名、落、城、と、お、び、さ、り、  
 と、織、田、殿、を、ま、り、小、燥、焦、む、ひ、速、地、ふ、彼、野、へ、馳、向、ひ、敵、と、擊、  
 べ、と、宣、へ、とも、濱、路、と、通、直、途、へ、機、會、辰、の、正、中、あ、れ、ば、  
 潮、ま、り、と、進、満、て、通、ひ、ぐ、き、と、奈、何、あ、せ、ん、然、ば、笠、寺、の、東、  
 ある、細、畷、と、ゆ、け、や、と、て、接、小、操、で、そ、う、ち、あ、ふ、辰、を、頃、丹、下、



ある扶寨ふ着うせむひければ。柴田とくわら罕城の諸將君  
 と迎へてせまらう。悦賀まると限りか。禰て木下藤吉郎と  
 謀りむひ一変なれば。中島の扶寨と。當て急進せんと宣へ  
 ざるを。柴田大制しまわらせ。中島とわら一所へ左右回  
 深く路窄し。彼所とくせむし時。尙敵進ひまわらせむ。  
 進退殊ふ難危あり。紉や中島の地勢よあてん。防戦の便  
 最歹一此所ふ在し。すて所合戦こそ然るべけれ。と頼ふ  
 純わまのうまると。信長柴田と迎へて。昭と声と。悄めて宣ふやう。  
 彼所ふ見ゆる阜ふつきて。暫く自軍と伏置つ。敵と本道へ  
 行過し。山崖かへ徑路より。今川義元の本陣、斬投らんと  
 あり。あま敵へ鷲頭丸根と落し。勝ふ乘て勢猛く。無碍ふ

進んで進来らん。然まれば。亦小隊様さる。五ヶ所の砦有るらん。彼  
 所みヶ所の砦落るべ。這西城ふ進発る。勢へ定めを夥しく山とも崩さ  
 り。あまひるべ。汝係強。這地ふ防がば敵へ一時ふ攻落るん。と諸勢を  
 増して進来り。功善と辛ひ戦ひるん。尙若らん。亦義元の本陣殊ふ  
 小勢ふて。必定無明の酒ふ酔ひ。生鮮あらん。其處へ鳴と鎮めて  
 推進るべ。奈何てう大將と依さるや。唯け城めて敵とあらしむ。氣長  
 く防とと要とせよ。熟心よりやと宣ふ。權六大甘心を斯る奇謀の  
 うへ。小居いふも。這所へ敵と争併せ。駒長く持堪へ。稟べ。其間ふ進させ  
 るや。と速ふ是と所奉も也。柴田へ戦場ふ向う。丹下の城ふ。信長の旗  
 馬標と樹られ。外見ふ是と見ると。駒へ織田殿這ふ揮ると。敵の自軍の  
 見做らう。又善祥寺の北ふ中で。鳴海より。熱田へ通ふ路あり。が。這ふ





豊臣巴刃編卷之九

二二



信長  
 脚道  
 發  
 桶峽  
 殺突  
 せん  
 谷

豊臣巴刃編卷之九

二二



織田大隅守と大將とて。林佐渡守。深田出羽守。俵一千餘騎。是ふ江州の  
 加勢一千六百騎と添て。是は敵と八方へ引散んと。謀計なり。然して  
 信長中御より。山の腰より徑と巡り。敵の背へ出ると。僅ふ五百の清自兵。山の  
 峽へ隠潜。敵の先陣と行過さんと。人馬音せを待たせり。這時木下藤吉郎  
 へ中島の石を投り。赤田犬千代ふ面會なり。鷲津の軍ふ松山新吾と。敵  
 捉ふ。始末と所。大に悦で此と賞なり。然る是より鳴海あり。織田信  
 廣が戰場ふ至り。忠義と勵せり。敵と撃て。猶も功名あり。といふを得  
 たりと。赤田犬千代藤吉郎ふ別とつげ。大隅守が陣所と當て馬と駿  
 らせ駈行ける。

繪本豊臣勲功記初編卷之九了



